

# アフリカの若者が主体になる SDGsに向けた取り組み

——ケニア・ソマリア・ガンビアでの事例

福林 良典\*



ご紹介にあずかりました宮崎大学工学部の福林と申します。私自身は労働問題の専門家ではなく、道普請人（みちぶしんびと）というNPOで国際協力を行っている実施者です。その立場からお話をさせていただきます。私たちはILOと一緒にケニア、ソマリア、ガンビアで開発協力を行っています。今日は主にケニアでの事例を紹介させていただきます。

## 1 「持続可能な開発」のために

国際開発協力にかかわっているNPOの人間として、まずどういう趣旨で活動しているかを最初に紹介したいと思います。われわれがターゲットとしているのは、次頁図1のような途上国で、とくに農村部の生活道路と言われている道路です。この道を直すことで、SDGsに貢献しようとしています。都市部や幹線道路はかなり維持管理が進んでいますが、農村部で生活道路と言われる道は、この写真で示しているような状況で、病院に行きたいときでも四駆の車でさえ立往生してしまいます。何とかこういう道を少しでも通れるようにし、貧困削減に貢献したいと考えています。

何をやるかという点、私どもの発想は、「自分たちの道は自分たちで直す」というものです。まずは自分たちの生計向上に向けて一歩踏み出すところから生活改善が進むと考えています。道路を直すというのは大きな事業で、道路の専門家でなければできないとか、機械がなければできないという固定概念があるかもしれません。ですが私たちは現地の事情を踏まえ、現地の材料と人力でもできる方法で、まず一歩、道を良くすることができるという発想で道直しを行っています。

どうするかというと、まず「工法の工夫」です。私は工学部にいますが、工学的な観点から、現地にある物資でも、何か少し手を加えることで道がよく直るのではないかと発想で、土のうを使った道直しをやっています。道直しは、沿線の多くの方々が集まり共同で作業をしていく必要があるため、沿線の道路の利用者の「住民の組織化」につながります。私たちが帰った後も、彼らが

---

\* 福林良典（ふくばやし・よしのり） 宮崎大学工学部准教授／NPO法人道普請人（みちぶしんびと）理事。1998年京都大学大学院工学研究科博士前期課程修了。建設会社に就職し国内建設現場の施工監督を実施。2004年に退職し大学院博士後期課程入学、2007年修了（博士（工学））。同年NPO法人道普請人を設立し常任理事に就任。2018年宮崎大学工学部准教授、NPO法人道普請人の理事を兼務。現在に至る。

図1 NPOの活動イメージ

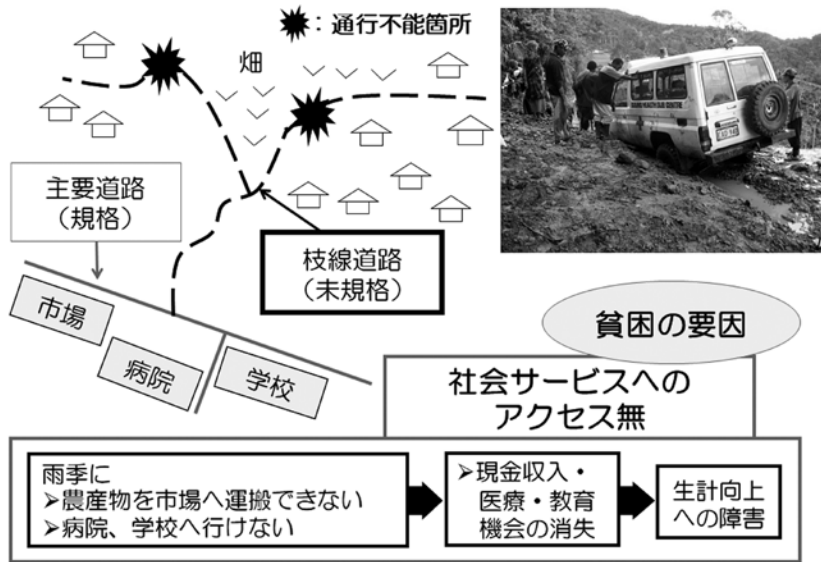


図2 従来工法と土のう工法



自分たちで身の周りの材料で道を直していくことができるように「住民への技術移転」も重要です。私たちが実際に彼らと一緒に汗して直して、住民の方に道が良くなったことを実感してもらうことが、「持続的な住民による修復」につながります。また、こういった土のう袋や現地材料の集積や調達などにおいては、「行政との連携」も必要なので、政策提言や道路管理者に認知してもらうための活動も行っています。

図2は、従来工法と土のう工法を比較したものです。従来工法は5年から10年のもつような耐久性が必要だろうと発想し、そのためには選別されたいい材料を用い機械を使って施工することになります。私たちはそういった発想ではありません。現地の材料と人力施工でできることを考えます。何年もつのかという耐用期間はあえて言わないのです。壊れたら、またそのとき自分たちで直して

いくというやり方も、場所によっては有効だということです。

## 2 ILOと連携した開発協力

ILOと連携してやらせていただいた開発協力は、ケニア、ソマリア、ガンビアにて、以下のような事例があります。事業名は、ケニアでは「持続可能な開発のための若年雇用」といった内容です。ソマリアは、国の事情は皆さんもご存じかと思いますが、「帰還難民と国内避難民のための緊急生計回復による自立支援」です。ガンビアは「若年雇用創出と持続的な平和構築」です。ガンビアでは、政権交代による政情不安時に、国外に避難された方が多くいました。政情が安定しそのような方が母国に戻られつつあります。帰還民の生計向上に向けたプロジェクトをILOと連携し実施しています。

表1 ILOと連携した開発協力

国	年	事業名	事業背景	雇用創出, 他目的
ケニア	2012年 2014年	持続可能な開発のための若年雇用	干ばつ被害地 高失業率, 低就学率, 少ない技能訓練機会, 治安悪化(国境)	社会的不均衡の 是正
ソマリア	2014年 2016年	帰還難民と国内避難民のための 緊急生計回復による自立支援	帰還民・国内避難民, 受入住民	平和的な共存と 社会的統合
ガンビア	2018年	若年雇用創出と持続的な平和構築	政情不安(政権交代), 移民/帰還民	相互理解 社会の安定化

事業の目的は雇用促進、つまり道を直す事業を通して現金収入の機会を与えるということです。ですが、それ以外にも目的があります。たとえば道がよくなることで、市場、学校、病院へのアクセスが向上します。道路整備技術を身につけることで、今後は自分たちでその技術を活かして建設会社を立ち上げ、持続的に企業活動を行うことができます。ほかにも「平和的な共存と社会的統合」など、共同作業を通して地域に貢献するという経験が地域社会の平和的な共存につながることも期待されます。

次頁図3は、2012年にILOから委託を受けてケニアで行った雇用促進に向けた道路建設技術の研修の様子です。若者が写っていますが仕事がなくぶらぶらしては日々はうっぷんがたまりますし、暇つぶしのイベントを探しているような状況は、政情不安が引き金になり、暴動に発展する可能性もあります。日々みんな道を直すというような目的を持った活動や仕事があれば、平和的な社会になると考えられます。

これらの写真は、若者の住んでいる居住区において、現地の材料を使って道を直す様子です。今まで仕事がなくぶらぶらしていた若者が、道直しを通して地域に貢献した経験、きっかけを得ます。彼らが現地でふだん使っているごみを集めるリヤカーを、今度は土のうを詰めて道を直す道具として活用しています。みんなで集まり1つの目的に向けて作業をするというチームワークを経験します。また、こういった技術を身につけた若者が起業して、持続的に建設業を担っていきけるような

図3 若者グループへの土のうを利用した道路整備研修



きっかけづくりをしたいということがあります。彼らがいる場所に、私たちや現地行政の会社の登録を受け付ける機関が出向き、会社登録の方法と起業という次のステップがあるという情報も提供しています。



### 3 持続可能な雇用にするために——若者雇用促進モデル

重要なのは、起業した若者の事業活動を持続可能なものにするということです。そのために行われているケニア政府の政策をいくつかご紹介します。

1つ目にご紹介するのは、ケニアのAGPO政策（Access to Government Procurement Opportunities）です。これは公共事業の30%は若者・女性・障害者グループに優先的に発注するという制度です。しかし対象となるグループは公共工事入札資格を得る必要があります、そのためにはグループ内に大卒あるいはある研修を修了したメンバーが含まれていることが必要です。ケニアは2007年に暴動を経験しているので、若者雇用対策に力を入れています。

2つ目として、道路整備5カ年計画（2013～2017）があります。これには、農村道路、生活道路は現地の材料を使って労働集約的に直しましょうという内容が含まれています。労働集約工法、現地材料活用アプローチ（Local Resource Based Approach：LRBA）と呼ばれるもので、土のう工法を推奨しています。LRBAを使う公共事業であれば、若者グループのように資本が無くても参入可能です。LRBAでの公共事業の発注のためには、LRBA工法の仕様書の整備が必要です。

3つ目として、労働集約的な道路維持管理方法や、土のう工法、ビジネスマネジメントの研修などが公的な研修機関で行われています。6週間の合宿形式で行われ、研修費用は1人当たり16.5万円かかります。この研修を修了したメンバーが属する若者グループは公共工事を受注する資格を持ちます。

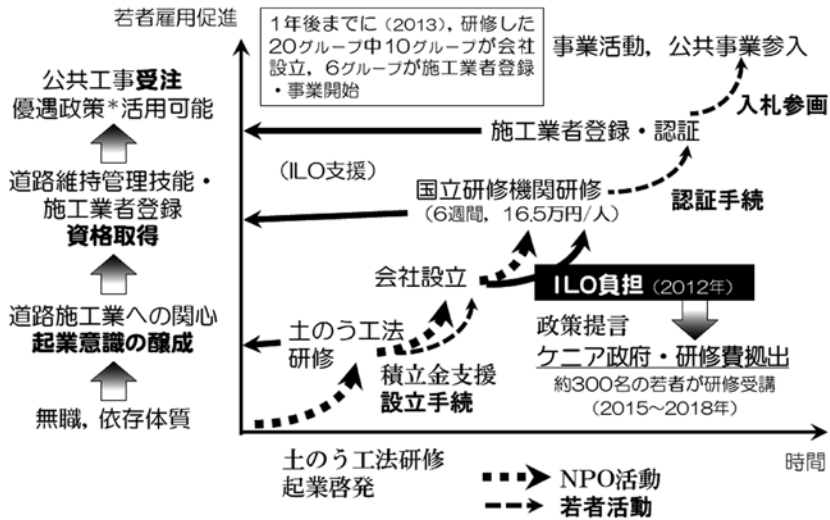
これらの政策はそれぞれ良い面があるのですが、その効果を発揮できない状況にありました。公共事業の3割が若者グループに対して優先的に発注されるといっても、受け皿となる若者がいなければ、当然その政策は効果を発揮できません。公共事業ですので、その工事にはそれなりの品質を確保する必要があり、ある程度の技能を持った若者たちがいないと発注したくてもできません。2つ目の政策で、労働集約的なやり方で現地の材料を利用していいとしておきながら、一方では、公共工事は仕様書に従い施工しなさいとも言われます。やはりLRBAでの工法についても、このやり方はこういう道に対しては使っていいですといった仕様書をつくる必要があります。3つ目の政策も国営の研修所があるので、誰でも行けるといのですが、研修費用は1人当たり16.5万円かかります。6週間の合宿形式で、研修内容が良かったとしても、若者はこの費用が出せないで行きたくても行きません。つまり、若者にどう参入の機会を与えるかが課題です。

ではどうやってこのような政府の政策や制度を若者が利用できるようにするのかと考えたのが、次頁図4のモデルです。横軸は時間軸で、縦軸は若者雇用促進度、つまりもともと若者が仕事がない、無気力とかいう状態からだんだん雇用を得ていくことを示す軸になっています。

太い矢印は、NPO、つまり第三者が支援する活動です。その後の細い矢印は、若者に自発的に動いてもらう部分です。土のう工法の研修で、まずは何かできるのではないかと若者をやる気にさせるところに、NPOが関与します。その上で会社を設立するための具体的な方法を教えるという支援をします。お金は第三者が支援できたとしても、実際に誰を社長にして、どういう事業内容にしてということは、若者自身に決めてもらわないといけないので、そこは若者の活動です。

次に若者が設立した会社がAGPO政策を活用できるようにするための手を打ちます。3割の優先受注を受けるためには技術を身につける必要があります、資格が必要です。資格の1つが国立の研修機

図4 土のう工法研修による若者雇用促進モデル



関の研修所を卒業することですが、その研修費用の16.5万円を誰が払うか。2012年にILOとの連携事業ではILOに出していただきました。この時20グループを研修したのですが、1年後の2013年までに、研修した20グループのうち、10グループが会社を設立して、また6グループが施工業者として登録し事業を開始しました。この事例をケニア政府にアピールしたところ、ケニア政府が、自分の国の若者雇用促進政策に見合う1つの予算執行になると判断し、約300名の若者が研修を受講できるようにお金をを出しています。

図5 起業に成功した若者の事例



2012年に研修を受けたサイモン・ジュグナさんは、「仕事がなくぶらぶらしていたとき、土のう工法の研修に参加することができた。土のうは自分の人生を大きく変えた。」と話しています。研修後、彼は「Do-nou technology company」という名の会社を設立して、今では施工業者として経

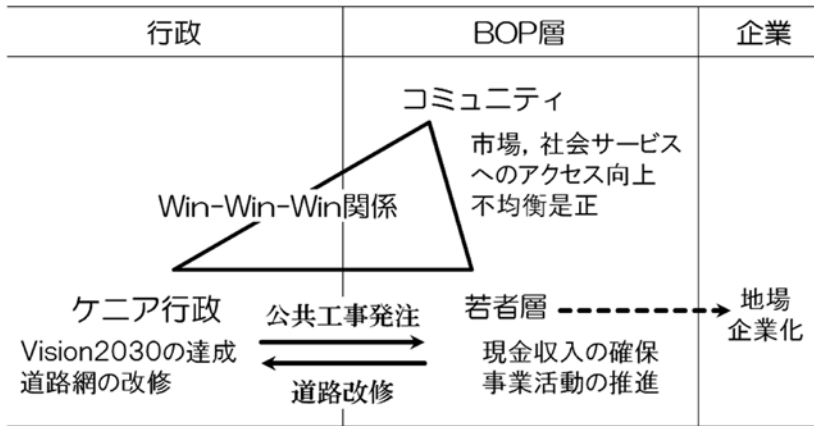
験を積み重ね、事業を拡大しています。この研修が若者の人生を大きく変えたという1つの事例です（前頁図5）。

#### 4 若者に明るい未来を——結びに代えて

私たちはこの活動を Win-Win-Win の関係と捉えています。ケニア行政から見たときには、若者の雇用促進になり、道をよくするという国策にもかまいません。若者にとっては、現金収入につながる技能を身につけることができ、次の事業活動の推進につながる下地を得ます。また、周囲のコミュニティにおいても、道がよくなれば、市場、病院、学校にも行けるようになりますし、若者が日々仕事をしている社会はコミュニティとしても健全な環境ということになります。さらに、若者層は今後うまく事業活動を展開していくことも考えられ、地場経済の活性化が期待できます（図6）。

まとめますと、私たちはNPOとして、「自分たちの道は自分たちで直す」という発想で、現地の材料を使って人力でやるという簡便道路整備手法で、道直しを行ってきました。ILOの開発協力とも連携して、資産・技能を持たない若者をディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）に誘導し、機会を提供してきたということです。

図6 三方よし（Win-Win-Win関係）でSDGsへ



次に、もう1つ、持続可能な雇用にしていくために、現地行政の意識改革、能力強化や工法の仕様書の整備も必要であると政策提言をしてきました。その結果、いまはケニア政府がお金を出し、若者にこういう研修を受ける機会、つまりビジネスを始める機会を行政として与えられるようになってきました。

この活動は、アフリカの若者をSDGsに向けた活動主体とする開発協力だったと思います。

2014年1月、安倍首相はアフリカ連合（AU）本部のエチオピアで『「一人、ひとり」を強くする日本のアフリカ外交』と題するアフリカ政策スピーチを行いました。アフリカの人々、一人ひとりが自分たちの能力に自信を持ち、未来を築く努力を重ねていくことが大切であることを強調し、日本と日本企業はそれをサポートしていく用意があるということ、そして人材育成の分野でもとくに

若者と女性のエンパワーメントを重視していくというメッセージを発しました。

一人ひとりが確かな自信をつけ、毎日たゆまず働くうちに、会社は伸びるでしょう。そういう会社、職場が、1つ、また1つ増えて行くと、社会は次第に安定し、やがてそこに、民主主義の、確かな土壌ができてくるでしょう。私たちのNPO法人、道普請人には、その格好の事例があります。私たちとILOとの開発協力の事例は、日本の補正予算でやらせていただいている活動でもあります。日本政府が出したお金を日本のNPOの立場で私たちが使わせていただけることは、私たちにとっても光栄なことだと思っています。ありがとうございました。(拍手)